



まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

ねらい・関東地方の人口の分布や産業などの地域的特色、それらの関係、課題などについて理解する。

(知識及び技能)

・関東地方の地域的特色や課題などについて、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基にして、事象間の関係や地域内の結び付きなどに着目しながら、多面的・多角的に考察し、表現する。

(思考力、判断力、表現力等)

・関東地方の地域的特色やその要因、地域の課題などを主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

(学びに向かう力、人間性等)

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関東地方の人口の分布や産業などの地域的特色、それらの関係、課題などについて理解している。	関東地方の地域的特色や課題などについて、事象間の関係や地域内の結び付きなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	関東地方の地域的特色やその要因、地域の課題などを主体的に追究、解決しようとしている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

小単元の指導と評価の計画

(●…指導に生かす評価 ○…記録に残す評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	小単元を通して学びたいことを共有し、学習計画を立てる。 小単元を貫く学習課題「人口が集中する関東地方において、持続可能な社会を実現するためには何が必要か」			●
2	「関東地方の地形や気候にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
3	「関東地方の人口構成にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
4	「関東地方の商業にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
5	「関東地方の農業にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
6	「関東地方の工業にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
7	「関東地方にはどのような課題があるのだろうか」について考える。	●	●	
8	資料や思考ツールを用いて、小単元を貫く学習課題について班でまとめる。		○	
9	各班の意見を共有し、小単元を貫く学習課題についての考えを練り直す。			○
	小単元終了後のペーパーテスト	○		

小単元の見通し

第1時で、生徒たちが、関東地方について学びたいことなどを出し合い、小単元を貫く学習課題を設定し、この解決のために第2～7時の学習を行います。第8時で小単元を貫く学習課題について班ごとに話し合いを行い、最終の第9時で各班のまとめを共有し、自分の考えを練り直します。このように単元のゴールをクラス全体で共有して学習を進めることは、追究意欲の持続や協働的な学習につながると考えます。



ICTの活用

生徒たちが資料を見ながら意見を交換したり、視点を明確にしながらかし合ったりできるように、タブレットから自由にアクセスできる「資料箱」を用意します。また、思考ツールを用いて、考えを整理する機会を設けます。小単元を貫く課題の解決に向けて考える際に、話し合いの根拠となる資料を共有したり、考えを可視化して伝え合ったりすることは、思考の深化につながると考えます。

本時のねらい 関東地方の課題を基に、関東地方が今後、目指していく姿について考える。

本時は、「関東地方の今後の姿」について、班で構想する時間です。前時までの学習内容を生かせるように、これまでの学習で用いた資料や考えてきたことを確認します。また、思考ツールを用いて話合いの視点を明確にしながら自分の考えを伝え合い、班の考えをまとめることができますようにします。

学 習 活 動

① 学習課題を確認する。

人口が集中する関東地方において、持続可能な社会を実現するためには何が必要か。

- これまでの学習内容を振り返る。

② 関東地方の今後の姿について資料を基に考察する。

- 「目指す姿」、「課題」、「提案」という三つの視点を明確にしながら、班ごとに考察する。
- タブレットの中の「資料箱」にある資料を確認する。
- 班ごとに使いやすい思考ツールを選択し、話合いを行う。
- ほかの班と意見交換し、視点や考え方を参考にする。
- 次時の発表に向けて、提案の内容を整理し、各班でまとめた思考ツールを「提出箱」に提出する。

③ 本時の振り返りをする。

- 振り返りシートの記入を行う。



生徒の振り返り

これまでの学習で、関東地方の様々な問題の主な原因は、人口格差であるということはいよいよ分かっていただけけれど、いざ、目指す姿や、そのための提案を考えると、単純ではないと感じた。人口格差の解消ばかりを考えていただけけれど、班で話し合っているうちに、人口を均等にして、北関東と東京大都市圏を同じような地域にするのではなくて、それぞれの地域のよさを生かしてお互いに助け合える関係をつくるのが必要なのかもしれないと思った。



本時の見どころはココ！

- これまでの学習で用いた資料と本時で新たに示した資料、教科書や資料集に掲載されている資料をタブレットで管理することにより、班の考えとその根拠となる資料を関連付けやすくします。

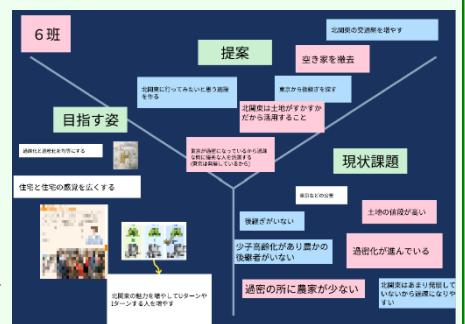


今日の資料も参考にして、関東地方の「課題」を見直してみよう。

- 班の話合いの途中経過を、タブレットを用いて、ほかの班と伝え合うことにより、新たな視点に気付けるようにします。この活動により、その後の話合いがより活発になります。



- Y字チャート、マトリクス表などの中から使いやすい思考ツールを選ぶことにより、生徒たちがやりやすい方法で、話合いができるようにします。話合いの視点を明確にしたり、お互いの思考を可視化したりしながら、自分たちの考えとその根拠となる資料をまとめることができます。



これまでの学習を基に、「現状の課題」と「目指す姿」を明らかにすると、これからの関東地方への「提案」が見えてくるね。



最後に、単元を振り返り、生徒にどんな力が身に付いたか確認しましょう



生徒たちの学びたいことを基に、クラス全体で「小単元を貫く学習課題」を設定するのは難しいことでしたが、全員が同じゴールを見据えていたので、課題の解決に向けて活発な話合いが見られました。また、タブレットに「資料箱」というフォルダを作り、資料を自由に活用できるようにしたことで、自分の考えの根拠となる資料を選ぶことができるようになりました。単元の構想とICTの活用の工夫が、話合いや資料活用場面を充実させることにつながったので、生徒たちは、資料などを基に構築した自分なりの考えを、より多面的・多角的に再構築する力を伸ばすことができました。